

いずみっ子



道泉地域力推進協議会 TEL・FAX83-9084

子育て支援グループ発行 2022. 5. 10

〈小学校区別交通事故発生マップ〉

瀬戸警察署からのお知らせ。右記QRコードから市内で昨年までの過去5年間に発生した歩行者、自転車の人身交通事故の状況を閲覧できます。



子どもガイドには、瀬戸市の子どもの遊び場や、子どもと一緒に出かけできる場所の紹介をはじめ、子育てについて気軽に相談したり、親同士でおしゃべりできる場所や、子育てを支援するサービスなど、子ども・子育てに関するさまざまな情報を掲載しています。

瀬戸市の「子どもガイド」の令和4年版がこの度発行されました。市役所2階こども未来課や支所、子育て支援施設等で配布されています。
● 右記QRコードから瀬戸市のホームページにアクセスしていただければその場で入手することができます。



令和4年度

「どうせん子育てひろば」のご案内

5月10日(火)

6月9日(木)

7月1日(金)

9月13日(火)

10月24日(月)

11月18日(金)

12月1日(木)

1月27日(金)

3月13日(月)



☆参加対象:道泉連区にお住まいの未就園児とその保護者の方ならどなたでも。
お孫さんをお連れしてのご参加も大歓迎です。
(お孫さんが他地域にお住まいの方でもかまいません。)

☆時間:いずれの開催日も10~12時

☆場所:道泉地域交流センター
2階大会議室(118㎡)

☆ご予約や参加費は不要です。

☆オムツの交換をせまられてもご安心ください。
対応できます。

☆授乳を希望される方は、ご遠慮なく係りの者にお申し付けください。ご案内いたします。



☆駐車場がセンター裏に10台、道を隔てた東側に15台分あります。

☆地域の"先輩ママ"が中心となり、簡単な手遊び・歌・体操・絵本や紙芝居の読み聞かせを行ったり、季節の行事に合わせた親子制作をして、楽しいひと時を過ごすことができれば、と考えております。

☆せとっ子ファミリー交流館の職員の方に9月と1月の2回、お手伝いいただけることになりました。

NEW

☆子ども・若者センターの職員の方が6月と10月の2回、いらっしゃる予定です。

☆天候や新型コロナウイルスの影響等で中止になる場合もあります。あらかじめご承知おきください。状況判断が難しい場合は道泉地域交流センターまでお問い合わせください。

☆Instagramのアカウントを作成しました。dousen_kosodatehiroba です。中止する際のお知らせや子育てに関する情報を発信していくつもりです。また小紙の補遺・補完にも活用します。

☆あなたとお子さまのペースでご参加いただけます。開始時間に間に合わなくても、ご遠慮なさらないでください。また、いつお帰りになられてもかまいません。

☆できる範囲になりますが、感染症対策にはじゅうぶん配慮するつもりです。参加される方にはマスク着用、手指消毒等のご協力をお願い致します。なお、身近なところに体調不良の方がいらっしゃる場合は申し訳ありませんが、ご参加を見合わせるようお願い申し上げます。

☆今年度も各町内からおひとり、地域力推進協議会の6つあるグループのいずれかに加わっていただくことになっています。当グループでは、子育てに関心のある方を歓迎致します。あなたのそのお気持ちが子育て中のどなたかの手助けとなるかもしれません。「恩送り」、こんな仕組ができたらいと思います。



「どうせん子育てひろば」は、瀬戸市地域力向上活動推進補助金を受けて運営されます。年度末に実績報告書を提出する際に開催時の様子を写した画像の添付が求められます。そのために、個人が特定できない程度の写真を撮らせていただきます。あらかじめご了承ください。

新型コロナウイルスと向き合う



大人から見て子どもの行動が完璧ではなかったとしても、「ありがとう」「よくやったね」「助かるよ」等の感謝を伝えることによって、子どもの自己肯定感や自尊心を育てていきます！

以前に流行したデルタ株よりも感染性が高く、再感染リスクの増加やワクチンの効果を弱める可能性があると言われていたオミクロン株ですが、入院リスクや重症化リスクは低い傾向にありました。

学校関係では児童生徒の感染者数が年明けから急激に増えたのですが、新年度に入ってからはその猛威のニュースは報道されなくなりました。感染経路が不明の割合が高くなっているところは油断を許さないところですが、学校内感染が家庭内感染よりも少ないところをみると、学校における新型コロナウイルス対策が効を奏していると思われます。

冒頭の文章は、2年前の3月から約2か月間、春休みをはさんで全国で学校が一斉臨時休業となり、その後再開される際に、国立成育医療研修センターが『学校関係のみなさまへ 学校再開に向けて』と題して発信したのから引用したものです。「あせらず、子どものペースを尊重して、子どもの声を聴きながら、すすめていきたいですね!」との助言も念を押す形で載せています。

「2年分のストレス、心身に影響」、この見出しの新聞記事を読みました。インタビューをまとめたものでしたが、回答者は同センター・こころの診療部の医長である田中恭子さん。専門は子どものメンタルヘルスです。オミクロン株の感染拡大で休校や学級閉鎖が相次いでいる時に次のように答えています。

子どもの権利でいうと、休校や休園で、学ぶ権利や遊ぶ権利が奪われるわけです。そうした権利を奪っていることを認識した上で、他に学べる機会や遊べる機会が提供できないか、そうした代替となるものがないかというのを子どもの意見を聞きながら一緒に考えないといけません。

同センターが立ち上げた【コロナ×こども本部】は、このような状況下で子どもたちの心身の健康や権利が損なわれることは最小限にとどめなければならない、という強い気持ちでつながった、研究者・医師らの集まりです。2020年春に、子どもたちと保護者の様子をたずねる第1回全国オンライン調査【コロナ×こどもアンケート】を実施し、現在では7回目を数えていて、すべて公表されています。「子どもたちや保護者、子どもたちと関わる様々な方々に知っていただきたい、一緒に考えていただきたいことがたくさんあったから」、その根拠はここにあります。

第1回調査は2020年4～5月実施に実施。緊急事態宣言下での生活の様子やこころの状態 困りごとなどに着目。2回目は2020年6～7月に実施。学校再開後、感染防止のための新しい生活様式の中での、こころの状態やスティグマ(コロナに関連した差別や偏見)に重点を置く。3回目は2020年9～10月実施。初回から継続して尋ねているこころの状態のほか、コロナ前後での生活の変化やストレス対処法、家庭や学校で子どもの権利が守られているかなどに着目。4回目は2020年11～12月に実施。うつ症状を中心としたメンタルヘルスに焦点を当てる。5回目は2021年2～3月に実施。コロナ禍1年をふり返る内容を幅広くアンケート。6回目は2021年9月に実施。子どものワクチン接種やオンライン授業に対する意見なども求めた。最新回である7度目の調査では、子どもたちのメンタルヘルスなどこれまで継続して尋ねてきた質問に加えて、子どものうつ状態について掘り下げています。

どの調査もオンライン方式で行われています。対象者をWEB上で募ったのですが、居住地には偏りが見られました。「関東地方」が毎回過半数を占めました。

似たような傾向が、対象となる子どもの月齢・年齢、学年にも見られます。初回こそ幅広い年齢層に渡りましたが、2回目以降の調査では、4割前後の0～2歳児の保護者が回答しているというところです。

「外遊びの機会が少ない」「テレビやタブレット・スマホを見る時間が長い」「同世代のこどもと触れ合う機会が少ない」「同居家族以外のおとなの口元を見る機会が少ない(マスクのため)」「同居家族以外のおとなと触れ合う機会が少ない」「感染や感染予防のために日々の日常生活が制限されている」「子育てのちょっとした疑問やこどもの日々の成長について話せる人がいない」、これらの項目にあてはまると回答した保護者が多くいらっしゃいました。

コロナ禍ではイベント開催が制限されてきました。両親学級・親子学級、自治体・自治体以外が運営する乳幼児向けイベント、この3項目について肯定的な意見よりも、「利用したかったが、利用しなかった/利用できる機会がなかった」が対面、オンラインとも大きく上回る結果を残しています。